

RUNUP!! FUKUSHIMA

Tokyo2020 オリンピック
聖火リレーふくしま情報紙

発行日 / 令和3年3月23日
発行元 / 福島県オリンピック・パラリンピック推進室
olipara_suishin@pref.fukushima.lg.jp 024-521-7312

市町村	走行場所	走行者	人数
3月25日(土)	檜葉町 みんなの交流館 ならば CANvas	檜葉町駅伝チーム	19
	広野町 ふたば未来学園中・高校	広野町内の小・中学校の児童・生徒	18
	川内村 川内村立川内中学校	川内村内の小・中学校の児童・生徒	19
	いわき市 いわき陸上競技場	いわき市内のスポーツ少年団の児童と特別支援学校児童及び介助者	20
	富岡町 富岡町立富岡第一中学校	富岡町立中学校の生徒	8
	葛尾村 葛尾村立葛尾幼稚園前	葛尾村内の小・中学校の児童・生徒 (一部卒業生含む。))とふくしま駅伝葛尾村代表メンバー	19
	双葉町 双葉駅前	双葉町の復興に寄与する取組を行っている方	8
	大熊町 大熊町役場本庁舎	大熊町の復興に寄与する取組を行っている方や町民を勇気づけられるような方	13
	浪江町 道の駅なみえ	浪江町内の小学校の児童	18
	南相馬市 雲雀ヶ原祭場地	南相馬市の復興に寄与する取組を行っている方 や市全体の盛り上げに資する方	20
3月26日(日)	相馬市 相馬中村神社	相馬市内の小・中学校と高校の児童・生徒	19
	飯館村 飯館村交流センターふれ愛館	飯館村内の義務教育学校の児童・生徒	6
	新地町 釣師防災緑地公園	新地町内の全小・中学校及び高校5校の児童・生徒	20
	川俣町 川俣町立山木屋中学校	川俣町内の小・中学校及び高校の児童・生徒 (一部卒業生含む。)	18
	福島市 信夫ヶ丘競技場	福島市内の小・中学校及び特別支援学校の児童・生徒	20
	猪苗代町 ぶな平グレンデ	「猪苗代スキークラブ」のキッズ・ジュニアに 所属している猪苗代町内の児童及び指導者	20
	三島町 三島町役場前	三島町及び近隣の3町村 (柳津町、金山町、昭和村) 内の小・中学校の児童・生徒 (一部卒業生含む。)	20
	喜多方市 喜多方プラザ文化センター 駐車場 (蔵の里前)	喜多方市及び近隣の3町村 (西会津町、磐梯町、 北塩原村) 内の小学校の児童	20
	会津若松市 鶴ヶ城公園市営駐車場	会津若松市内の小学校の児童	20
	南会津町 びわのかけ運動公園 健康交流センター	南会津町及び近隣の2町村 (檜枝岐村、只見町) 内の小・中学校の児童・生徒	11
3月27日(月)	下郷町 大内宿駐車場	下郷町内の小・中学校の児童・生徒	19
	白河市 白河小峰城	白河市及び県南地方の8町村 (西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、 棚倉町、矢祭町、塙町、鮫川村) 内の小・中学校の児童・生徒	20
	本宮市 プリンズ・ウィリアムズ・ パーク英国庭園	本宮市内の小・中学校及び高等学校の児童・ 生徒及び市内スポーツ団体に所属している方	19
	須賀川市 須賀川市役所前	「円谷ランナースポーツ少年団」に所属する児童・生徒	20
	田村市 古道体育館駐車場	田村市立都路小学校の児童	12
	郡山市 開成山公園自由広場	郡山市小学校体育連盟から推薦された生徒	19

26市町村の サポートランナーが決定!

より幅広い年齢層の多くの方が参加し、地域から聖火リレーを盛り上げる取り組みであるサポートランナーが決定しました。サポートランナーの走行は、リレーが実施される全26市町村で行われ、地元の小中学生を中心に計445人が聖火ランナーのすぐ後ろを走る予定です。

また、各走行市町村では地元団体による和太鼓演奏や吹奏楽の披露など聖火リレーに合わせた盛り上げイベントを実施する予定です。詳しくは、「ふくしまプラス2020」をご覧ください。



聖火リレーは自宅でも楽しむことができます

NHKでは、聖火リレーの様子や各地域の魅力をインターネット中継します。沿道に足を運ばなくとも、ご自宅で聖火リレーをご覧いただけますので、ぜひご利用ください。

なお、沿道で観覧される場合は、新型コロナウイルス感染症対策にご理解とご協力をお願いします。



聖火ランナーインタビュー vol.2

県実行委員会選出の聖火ランナーの皆さんに
普段のお仕事や聖火リレーにかける思いなどをお聞きました。

ランナーに応募したきっかけは何ですか
小学2年生の時にデザインナーの岡徳仁先生のワークショップがあったので、クラスのみんで校庭の「百年桜」の絵を描きました。それがオリピックのトーチのデザインのもとになったと聞いて、とてもうれしくて、桜のトーチをもって走ってみたいと思いい応募しました。ランナーに決まったときは、周りの人も「良かったね」と喜んでくれました。サッカーをやっているのですが、普段から走っているのですが、何かを持って走るというのは初めてなので、イ



早坂 優一さん
南相馬市ゆかりのランナー。中学1年生。石神第一小在学中に聖火トーチデザインの原点となった桜の絵画作成に参加した。

思い出の詰まった聖火トーチ

メッセージしながら練習しています。聖火リレーに向けての意気込みを聞かせてください
延期が決まったときはとても残念でしたが、また走るチャンスがあつてうれしいです。
南相馬市の良いところは住みやすいところです。南相馬は津波とか原発事故でいろんな被害があつて、一時期は避難していませんが、周りにあつた人も、10年ですけれども、復興したというのを聖火リレーを通して世界の人に見てもらえれば良いと思います。
力強く走れるように頑張ります。



佐久間 亮次さん

葛尾村ゆかりのランナー。実家の酪農を手伝いながら農業高校で学ぶ高校生。

葛尾村の農業を世界に発信したい

佐久間さんは、寮生活をしながら農業について学ぶ高校1年生。学校が休みの土日には、朝・夕と実家の手伝いとして約130頭いるという牛の世話をしています。

「聖火ランナーに応募したきっかけは何ですか
中学校の授業の中でみんな応募してみようということ、応募しました。自分は、実家が酪農をやっていることもあり、葛尾村の農業と、葛尾の復興を世界の人に見てもらいたいと思って応募しました。うちの牛乳は、営農再開以来、放射性物質の検査をしています、ずっとND（検出限



界以下)です。安全・安心な牛乳を作っているということを知ってもらいたいんです。
—東日本大震災当時は何をしていましたか
震災のときは幼稚園にいました。何が起きたかわからず、動けなくなっていました。何が滴のように流れ落ちていったのを覚えていました。目の前の家の瓦が滝のように流れ落ちていたのを覚えていました。何が起きたかわからず、動けなくなっていました。何が滴のように流れ落ちていったのを覚えていました。



す。その後、わけもわからず全村避難となり、福島市や県外を転々となりました。その間も、父は牛の世話をするため、毎日のように村に戻っていたそうです。
—葛尾村の良いところを教えてください
葛尾は自然が豊かで、村の人がやさしく、食べ物がおいしいです。特産の凍み餅が好きです。
—将来の夢はありますか
幼稚園の時に将来の夢として『らくのうかになる』と書いた紙がずっと家の冷蔵庫に貼ってあるのを小学生の時に改めて見て、「自分の将来はこれなんだな」と思いました。今はまだ勉強の途中ですが、いつかはこの場所で、自分で絞った牛乳をみんなに飲んでもらいたいんです。



菊池 正光さん

会津若松市ゆかりのランナー。鍼灸・マッサージの治療院を営む。全盲の視覚障がいを持ちながら、ランナーとして各地のマラソン大会に参加している。

—聖火ランナーに応募したきっかけは何ですか
たまたま会津大学で「視覚障がい者とともに走ろう」というサークルがありまして、トレーニングをしていました。そこでサークルの学生さんが聖火ランナーを募集しますよ、って教えてくれたんです。私はネットの応募に自信がなかったんですが、その彼が申し込んでくれるなら、と応募してもらいました。今回伴走してくれるのは、その阿部君です。
—普段からマラソン大会に参加されているんですか
そもそも全盲の人が走れるとは思って

走る姿で、夢と希望を届けたい

いなかったんです。でも「伴走してくれる人がいるなら走れる」ということを知って、最初はチラシを作って伴走者を募ったのがきっかけです。その後会津大学ができて、学生さんや先生方と走るようになりました。サークルは今では15人、うち障がい者が3人です。フルマラソンも経験されたということ。すごいですね
最初からフルは走れません。5キロ、10キロ、ハーフという感じで距離数を伸ばしていききました。田舎のほうですと、全盲者が走れるということ自体知られていないかもしれないですね。伴走者がいれば



鍼灸・マッサージの治療院を営む菊池さん

のういとるれ走

コロナで皆さんつらい状況だと思えます。感染の恐怖もあるし、仕事もなくなっている人もいます。全盲の人でも伴走があれば走れるんだ、という姿を見てもらって、負けないで、夢と希望を持ってほしいと思います。

―聖火ランナーに応募した
きっかけは何ですか

金山町をもう少し有名に
したい。もっと元気にした
いと思って応募しました。
もう一つは、マタギとい
う文化を通じて、都会の人
にも自然との関わり、自然
のすばらしさを感じてもら
いたいなと思っています。

金山の良いところは「自
然」です。杉林も多いんで
すが、昔ながらの自然がた
くさん残っています。昭和
の時代からずっと同じよう
な山が続いている。そうい
う自然をもっと自慢して良
いと思います。



猪俣 昭夫さん

金山町ゆかりのランナー。猟師。長年にわたって、マタギとしての活動やミツバチの飼育等に取り組んでいる。

マタギ文化を通して 自然を感じてほしい

らしいです。観光にきてい
ただいて、自然を感じても
らいたいです。都会の皆さ
んはあまり自然に接する機
会もないと思うので、心が
さみしくなってしまうと思
うんです。そこで自然に
いっぱい触れて充電して、
元気になって仕事していた
だければ。そういう場所に
なってもらえたら良いなと
思います。

―マタギとはどんなお仕事
ですか

マタギは秋田が発祥と言
われていて、千年ぐらいの
歴史があるんですが、今、
東北では50人ぐらいです。
福島県では、私だけです。
「旅マタギ」といって、熊

そうした考え方がこれか
らの時代ますます必要に
なってくると思っていま
す。自分が「マタギだ！」
と大きな声で発信していく
ことで、多くの人にもっと
命というもののや自然の大切
さを感じてほしいと思っ
ています。

マタギの仕事には、自然
保護という考え方が根底に
あります。人々の暮らしを
守りながらも、決して自分
たちの生活のため捕りすぎ
ることはしません。自然界
の生態系というものが壊れ
ないように見ながら捕って
きました。

撃ちの技術を各地の集落に
泊まりながら伝えていた人
たちがいました。私が修行
していた集落にも巻物が
残っているんですよ。動物
に対する見方、自然に対す
る接し方、みんなマタギの
人が教えていました。



五輪をもっと身近に

―聖火ランナーに応募した
きっかけは何ですか

自分がオリンピックに出
場して、その場の雰囲気と
いい、出場する選手の意識
の高さという「オリンピック
かつてすごい場所だな」と
いうのを身をもって感じま
した。東京でオリンピック
が開催されるにあたって、
選手として出場することは
難しいかなとは思っていま
したので、何かオリンピッ
クに関われたら良いなと思
い応募しました。

聖火ランナーに決まった
ときは、素直にすごうれ
しかったですね。なかなか



千葉 麻美さん

PR ラ
福島県 陸
矢吹町在住。北京五輪出場、陸
上女子 400mの日本記録保
持者。

ない機会ですし、選手以外
でも関わることができて幸
せです。一番最初が福島県
ということもあって、何番
目かだったら、見てからこ
ういう感じなんだな、とい
うイメージもつかめると思
うんですけど、ちよつとド
キドキしています。

―オリンピックを目指し始
めたのいつ頃からでしたか
オリンピック選手になり
たいと思ったのは小学校の
時で、その時は陸上を専門
にやっていたわけではあり
ませんでしたが、ただ、体育
がすごく大好きで、スポー
ツのすごい人〓オリンピック
の選手と思ってやってま
した。少しずつステップ
アップして、中学校の時は
全国大会、高校はインター
ハイ、大学、大人になって
も入賞したい、日本代表の
選手になりたいと思うよう
になりました。

私がオリンピックに出場

できたのは、チームだった
り、先輩、後輩の存在が大
きかったです。オリンピック
に出た時もマイルリレー
に出場してたんですが、
チームメイト全員が同じ大
学の先輩後輩だったので、
4人で絶対オリンピックに
行くんだ、という気持ちで
練習しました。挫折した
時も励ましあったり、頑張
ろうよと言ってくれるチー
ムメイトがいたからこそ、
頑張れたんだと思います。
―聖火リレーへの意気込み
をお聞かせください

私は今、町の職員として、
小中学校の体育のサポート
をしています。普段見てい
る身近な人が走ることで、
オリンピックを遠い存在で
はなくてより身近に感じて
もらえればと思います。

子どもたちに、地元で開
催されるオリンピックを見
せられるの意義があるな
と思いますし、オリンピッ
クを目標にしてくれる子ど
もたちが出てきたらうれし
いなと思います。矢吹町を
もっと子どもたちが楽しく
スポーツができる町、ス
ポーツが盛んな町にしてい
きたいなと思います。



矢吹町役場の職員として、日々地元の
小中学生の体育指導にあたる千葉さん
(写真は矢吹町立三神小)



山田 武蔵さん

下郷町ゆかりのランナー。大内宿在住で、食堂を経営。ふくしま駅伝の下郷町チームの監督を務め、チームの育成に取り組む。

大内宿の魅力と先輩方の努力を伝えたい

錯誤して観光地を整備したり情報発信したり、自主的に考えて発信、行動しているのが魅力ですね。集落の結束力が強いというか。ここで生まれ育った自分たちがやらなきゃならない、と思つてます。

子供や孫の世代にも受け継いでほしいですね

そうですね。地域のみならず子供を育てているようなもので、少し特殊な環境かもしれないですが、自分それが当たり前だと思つてました。

聖火リレーへの意気込みをお聞かせください

聖火が来るというのは特別なことです。大内宿も含め下郷町は観光地が多いので、これをきっかけに国内外に向けて発信できればいいなと思います。また、この大内宿は先輩方のおかげで今まで残っています。その人たちの努力も発信できれば良いなと思います。

聖火ランナーに応募したきっかけは何ですか
小さなころから陸上が好きで、僕らが小学生の時にはまだ大内宿にも大内分校があったんですけれども、陸上大会とかで本校の人たちと協力、競争することで、走るのが楽しいな、と思うようになりまして。そこから今まで継続してスポーツに携わっていきたいという思いがあり、オリンピックが開催されるといふこと、まして聖火が地元を通るといふことで、何かしら携わる良い機会だと思つて応募しました。

大内宿はどのような場所ですか
大内宿自体には、家とか土地を人に売らないとか、決まりがあるので基本的には地元の人以上が出店などできない仕組みになっています。地元の皆さんが試行



山田さんが営む松木屋でも提供される大内宿名物のねぎそば



池田 泉さん

浪江町ゆかりのランナー。高校時代にはソフトボールで全国大会に出場。震災時は母校・浪江高校に勤務。

浪江町が少しでも前に進むきっかけに

準備をしていたところぐらつと来て、生徒の安否確認から始まった、という感じでした。

当日は高校に泊まって、翌日の準備をしていました。明けて全町の津島に逃げてくださいということ、津島分校を避難所として使う準備を手伝いました。その後、会津に避難することになりました。4月になって、サテライト校の準備のために白河まで通いました。

落ち着いてから、ソフトボール部も練習を再開しましたが、部員がバラバラの場所に分かれてしまったので、送迎をしながら二本松

市のグラウンドを借りて練習を行っていました。

浪江高校の休校が決まったら、草ぼうぼうで。悲しくて無意識のうちに草むしりをしてしまつていました。

聖火リレーへの意気込みをお聞かせください

私にとっては言葉にできないぐらいこの町が大好きです。一番大事なところなんです。あつたかくて近所同士の付き合いもあつて。いろんな方にお世話になって自分は育つた気がします。

失つて始めて分かるじゃないですか、ふるさとが無くなるってたぶん誰も考えないじゃないですか。まさか、町が無くなるなんて。なんかポカンと空いた感じになって。今も24時間のうち考えない時間ってなくて。どうして、なんでだろう、という感じがあつて。なぜふるさとが変わってしまったのか、どうやったら戻るんだろう、といつも思つてます。

その思いと、浪江に少しでも何か出来たらという思いをかみしめて走ろうと思つています。

浪江町は負けないぞ！